

2009年度 東京大学 前期 日本史B

第1問

隋が成立し、高句麗への進出を図ると、ヤマト王権は遣隋使を送って対等外交を主張し、その權威の高揚を図り、留学生らも新知識を伝え、大化の改新の原動力となった。大帝国唐が成立し、朝鮮情勢が変化する中、遣唐使を送って朝貢したが冊封は受けなかった。唐からは律令などを導入し、留学生らも政治的影響力を持った。また、国際色を持つ唐文化は天平・弘仁貞観文化などに影響を与えた。

(180字)

第2問

A 豊臣秀吉は、所領紛争における自力救済を戦乱の原因ととらえ、惣無事令を発し、全国の戦国大名に停戦を命じた。秀吉は、自ら領国の確定を裁定し、惣無事令違反を理由に島津義久らを征討した。
B 天皇を後見する関白となり、天皇から全国支配権を委ねられた。
C 中世以来の御恩と奉公による主従関係に基づき、秀吉は石高を基準に知行給与し、軍役を負担させる大名知行制の基礎を構築した。

(180字)

第3問

A 1の時期にはポルトガルにより中国産の白糸が大量に輸入された。2の時期以降は中国からの白糸輸入が制限され、生糸の国産が進展する一方、書籍などの輸入、銅・海産物などの輸出が行われた。
B 長崎で交易を行った通商国中国からは、文人も来航し、仏教新宗派や考証学のみならず、漢訳洋書により西洋の学術も伝えられた。

(150字)

第4問

緊縮財政による米価下落、産業合理化による労働者解雇が進展する中、世界恐慌下で行った金解禁は昭和恐慌を招き、生糸輸出激減は養蚕業に打撃を与えた。更に豊作飢饉による米価暴落に東北大飢饉も相俟って、娘の身売りなど農村は惨状を呈した。また、失業者帰村により農村人口が増加し、満蒙開拓団など移民政策も図られた。

(150字)